

9月・10月の管理ポイント



今年の夏も非常に厳しい夏になりました。
トモグリーンの本社のある静岡市では40℃を超える日もあり、試験圃場の管理に苦労しました。
芝の生育期である秋に、グリーンが夏に受けたダメージを回復させていきましょう。

自然な色調の着色剤 **カラーメイトNEO M・D**

カラーメイトNEOは、季節感を重視した自然な色調に仕上がる着色剤です。耐光性の高い顔料の粒子が鮮やかな緑色を演出し、耐水性の高い樹脂が色落ちを軽減します。色調の好みや目的によりM(明るい緑)とD(暗い緑)の2色から選ぶことが出来ます。地温・葉温を上昇させることにより、春季の立ち上がりを促進します。芝の色を美しく引き出すため、冬枯れする前から散布をしていきましょう。

使用量：2ml/m² 希釈倍率：50~100倍 散布水量：100~200ml/m²

根の生育しやすい 土壌環境を整えましょう

レボ

秋に入っても台風やゲリラ豪雨などの短時間での大量降雨が増えています。レボは排水性が高く表層土壌の水分値を低めに保つため、過湿状態になりがちな降雨後にも気相をしっかり保ちます。定期散布を行い根の生育しやすい土壌環境を整えましょう。

スポット処理や張芝した箇所には手播きしやすい粒剤タイプのハイドレーターGがおすすめです。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回

高親水性土壌用界面活性剤

バイタルドロップ

高親水性のバイタルドロップは、散布時に葉の表面や表層の撥水性土壌に付着する量が少なく、深い層まで素早く届いて処理層を形成します。散布液が高濃度になる少量散布でも高い効果が得られる、安全性の高い製品です。ドライスポットの予防と治療、どちらの目的でもご使用いただけます。

ドライスポットの予防 使用量：1ml/m²/月 散布水量100ml/m²以上

ドライスポットの治療 使用量2ml/m² 散布水量100ml/m²以上

サッチの除去 土壌環境の健全化

サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用や近接散布も可能です。土壌の透水性を改善しましょう。

土壌微生物が活発な時期になるので、微生物タイプのサッチ分解剤「サッチ・マネージャー」もおすすめです。

使用量：グリーン0.2ml/m² ラフ・FW・Tee0.1-0.2ml/m² 散布水量0.2-0.5ℓ/m²

病害予防に

グリーンオキシラン水和剤

グリーンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。幅広い病害に効果があり、更新作業時の保護殺菌にお勧めです。

使用量：ベントグラス_希釈倍率300-500倍 1-2ℓ散布/m² 日本芝 希釈倍率500倍 1-2ℓ散布/m²

土壌中の有害物質除去

光合成細菌

過湿状態の土壌中に発生しやすい硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は硫化水素などを分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP(高エネルギーリン酸化合物：補酵素)などを分泌し、有用な土壌微生物の住みやすい環境を作ります。サッチ分解剤と組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

使用量：1~2ml 1ℓ/m²散布 月1~2回

冬になり休眠期を迎えるとコウライシバ等の暖地型芝草は退色していきませんが、コースの景観を保つために着色剤が使われます。今回は着色剤の効果的な使用方法と、表面温度を上昇させる効果について紹介します。

着色剤の効果的な使用方法

コウライシバに2色の着色剤(明色と暗色)を散布し、色の乗りを観察しました。

▼重ね塗りすることで色の乗りがよくなります！

1回散布後 11月



退色前から着色を開始することで、鮮やかな緑に仕上がります。

3回散布後 1月



散布回数を重ねるごとに、発色がより鮮やかになります。周囲の退色したコウライと比べると一目瞭然です。1か月間隔での重ね塗りがお勧めです。

▼退色が始まる前に初回の散布を行いましょう！

退色したコウライシバに着色した様子(12月)



色の乗りが悪く着色した箇所が目立ちません。休眠期に入る前から着色を開始しましょう。

着色前後の葉を観察

着色前

着色後



退色前

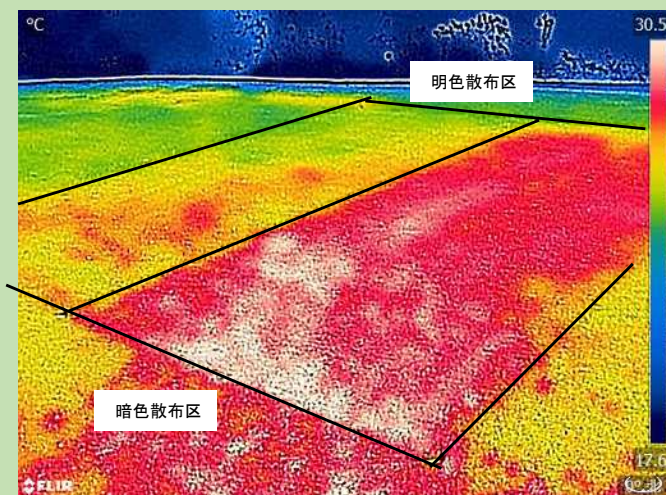


退色後



退色後に着色しても、枯死した葉の白色が目立ち、着色効果が落ちてしまいます

表面温度を上昇させる効果



◀ 着色した区画の表面温度が上がりやすくなります！

着色した区画をサーモグラフィーカメラ(FLIR社製)で観察しました。着色剤の顔料が日光の熱を吸収するため、表面温度が上がりやすくなります。特に暗色の着色剤を散布した区画の表面温度が高くなっているのがわかります。

表面温度が上がりやすくなることで
「葉が退色する時期が遅くなり、光合成できる期間が長くなることで貯蔵養分が増える」
「霜や氷が溶けやすくなる」
「春の立ち上がりを促進できる」
などの効果が期待できます。

コウライシバなどの暖地型芝草が冬季に退色するのは、気温が下がることが原因です。気温が下がると光合成に関わる酵素の活性が低下するため過剰な光エネルギーが増えてストレスとなり、葉緑体が崩壊して芝の色が抜けていきます。表面温度が上昇すると光合成できる期間が長くなるため、退色が遅くなる、春の立ち上がりが早くなるといった効果が期待できます。

コースの景観、コンディション維持のためにも着色剤を計画的に使用していきましょう！